

常陸牛の給食に舌鼓

太田一高 消費拡大、農家支援も 定時制

県立太田一高(常陸太田市栄町、森田一洋校長)の定時制課程(生徒15人)の学校給食に23日夕、県ブランド牛「常陸牛」を使った献立が登場した。新型コロナウイルス感染症の影響で需要が急減した県産和牛肉などの消費拡大と、肉用牛農家の経営安定を支援する取り組み。生徒たちは授業開始前に、ちょっと豪華な給食を楽しんでいた。



常陸牛ステーキ丼を楽しむ生徒たち＝常陸太田市栄町

県の県産和牛等学校給食提供緊急対策事業を活用した。コロナ禍でも生産活動に取り組む生産者の思いを理解するとともに、本県の魅力を再発見してもらおうと実施。同校ではコロナ禍で定時制課程の各種行事が中止や変更になっていることから学校生活の思い出になればと取り入れた。

校内の食堂には献立表示とともに、「今日は常陸牛の日。農家の方が心を込めて作っています。残さず食べましょう」と掲示。大根サラダやわかめスープに常陸牛ステーキ丼が出された。

2年生の大橋光廣さん(72)は「楽しみにしていた。軟らかくておいしい。次は常陸牛のステーキがいいかな」と笑顔。福田裕さん(47)は「給食で常陸牛が食べられるとは思っていなかった。甘みがあって軟らかい」と味わっていた。

同校では同様の献立を10月以降にも予定している。学校栄養職員の鈴木春香さん(30)は「素材の味を楽しんでもらおうと、シンプル

に塩、コショウで味付けし、食べやすいように丼にした。焼き加減が難しかったが、おいしいという声が聞けたのでとてもうれしい」と話した。小出岳夫教頭は「生産者への感謝と、生徒たちにも元気に学校生活を

送ってもらおうと実施した。コロナ禍でも生徒たちの笑顔を増やせることに取り組み、少しでも前向きな心につながれば」と期待した。(飯田勉)

